

RS ウイルスとは：呼吸器の感染症です

RS ウイルスに感染することによって起こる呼吸器感染症です。2 歳になるまでにほぼ 100%の乳児が感染と言われています。

4 日～5日間の潜伏期間後に発熱、鼻水、咳、のどの痛み等の風邪症状が続きます。新生児や乳幼児が感染すると細気管支炎や肺炎など、症状が重くなることがあります。

感染経路

咳やくしゃみによる「飛沫感染」、ウイルスに汚染されたものに触れることによる「接触感染」があります。感染者が触れたものや咳、くしゃみに注意しましょう。

治療

RS ウイルスには有効な薬はなく、特別な治療方法はありません。

基本的には経過観察を含め、症状に応じた治療になります。

機嫌がよく、つらそうでなければ、慌てずに様子を見たり、かかりつけ医にご相談ください。ただし、呼吸が苦しそう、食事や水分が摂取できない時は医療機関への受診をご検討ください。

予防方法

感染を予防するために、以下の対策が重要です。

- 1.石けんでの手洗い
2. アルコール消毒
3. 子供が日常的に触れるおもちゃなどの消毒
4. 鼻汁、咳などの症状がある場合はマスクの着用

ワクチン接種も有効な予防方法です

令和 8 年 4 月 1 日より妊婦の方へ RS ウイルスワクチンが定期接種となりました。妊娠 28 週 0 日から 36 週 6 日の妊婦の方が定期予防接種の対象者となります。